

日本の若年発症がんの記述疫学とグローバルな比較検討

1. 研究の対象

既に収集されている全国がん登録や地域がん登録情報を二次利用するため、該当調登録の対象者が本研究の対象者となります。

それらに加え人口動態統計、Global Cancer Observatory、Cancer Incidence in Five Continents、WHO Databases も使用します。

2. 研究目的・方法

私達は、過去数十年間に渡り、乳がん、大腸がん、子宮体がん、食道がん、肝外胆管がん、胆嚢がん、頭頸部がん、腎臓がん、肝臓がん、多発性骨髄腫、膵臓がん、前立腺がん、胃がん、甲状腺がんなど多くの若年発症がんの罹患率が世界中の多くの国や地域で増加していることを明らかにしてきました。スクリーニングや検診技術の向上、がん登録の精度の向上がこの現象にある程度寄与している可能性はありますが、若年発症大腸がんを始めいくつかのがん種の若年発症がんの罹患率は真に増加している可能性があります。これまでの研究から、若年期の危険因子への曝露が若年発症がんのリスクに関連していることが示唆されています。20 世紀半ば以降、多くの曝露因子（食事、ライフスタイル、肥満、環境、マイクrobiオームなど）の有病率が大きく変化しており、それらの曝露因子や、曝露因子と遺伝素因との交互作用が若年発症がんの増加に寄与している可能性があります。しかし、若年発症がんの増加の真の原因については不明な点が多く、若年発症がんと高齢で発症するがんでは、臨床像や分子病理学的特徴が異なることも、いくつかのがん種で示唆されています。若年発症がんの増加の原因を解明するためには、まず第一に若年発症がんの罹患率や死亡率の詳細な動向を調べることは必要不可欠です。

本研究では、日本における若年発症がんの罹患率、死亡率の動向について詳細な検討を行い、海外における若年発症がんの罹患率、死亡率の動向とも比較検討します。臨床病理学的因子だけでなく様々な曝露因子やスクリーニング普及率との関連も評価し、若年発症がんの罹患数が増えているか、増えている場合には何故増えているかを考察します。

研究期間は研究許可日から 2035 年 3 月までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

全国がん登録や地域がん登録からがん罹患数や進展度などの情報を二次利用します。人体から採取された試料や遺伝情報は含みません。

4. 試料・情報の授受

本研究は、既に実施されている疾病登録や調査によって収集された情報の二次利用にあたります。該当する法令や倫理指針、および提供機関のガイドラインに従って必要なデータの申請を行います。個人を特定できないように加工された情報を提供機関

が指定する方法により受領します。提供機関から承認を受けた研究者のみがデータを利用し、それ以外の者がアクセスできないように、物理的・組織的・人的・技術的な安全管理対策を実施します。集計や解析結果については、執筆や報告書作成のために研究班の研究者に共有することがあります。すべての情報等は、研究代表者が責任をもって厳重に管理します。

5. 研究組織・研究責任者

- 研究代表者
鵜飼 知嵩（国立がん研究センター研究所 統合がん研究分野）

- 共同研究者
井上 真奈美（国立がん研究センターがん対策研究所 予防研究部）
鵜飼 智子（国立がん研究センター研究所 統合がん研究分野）
菊池 弥寿子（国立がん研究センター 研究所 統合がん研究分野）
田中 詩織（国立がん研究センターがん対策研究所 予防研究部）
堀 芽久美（国立がん研究センター がん対策研究所 がん登録センター）

- 研究事務局
濱田 毅（国立がん研究センター研究所 統合がん研究分野）

6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。

なお、この研究が適切に行われているかどうかを確認するためや研究の科学的意義を検討するために、国内外の第三者の立場の者が研究対象者の方の研究データなどを拝見することがあります。このような場合でも、これらの関係者には守秘義務があり、個人情報は守られます。

連絡先：

事務局

国立がん研究センター 研究所 統合がん研究分野

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511（内線 3464）

担当者：濱田 毅

研究代表者：鵜飼 知嵩